

時津町小中学生の平和に関するアンケート 報告書(令和6年度実施)

時津町企画財政課

令和6年12月

目 次

【Ⅰ. アンケート実施について】

1. 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. アンケート実施日・・・・・・・・・・・・・・・・	1
3. 対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2

【Ⅱ. 集計結果】

1. あなたのことにについて教えてください・・・・・・・・	2
2. 次のできごとの年月日と時間を教えてください	
(1) 広島への原爆投下・・・・・・・・・・・・・・・・	3
(2) 長崎への原爆投下・・・・・・・・・・・・・・・・	6
(3) 第二次世界大戦(太平洋戦争)終戦・・・・・・・・	9
3. 原爆被爆者から原爆や戦争についての話を聞いたことがありますか・・・	1 2
「ある」と答えた人は、どこで聞きましたか・・・・・・・・	1 3
4. 原爆資料館を見学したことがありますか・・・・・・・・	1 5
「ある」と答えた人は、いつ見学しましたか・・・・・・・・	1 6
5. あなたの学校に「被爆クスノキ2世」が	
植えられていることを知っていますか・・・・・・・・	1 8

【Ⅲ. 個別項目】

1. 「広島への原爆投下」項目別回答状況・・・・・・・・	2 0
2. 「長崎への原爆投下」項目別回答状況・・・・・・・・	2 1
3. 「終戦日」項目別回答状況・・・・・・・・・・・・・・・・	2 2
4. 質問別 完全正答率・・・・・・・・・・・・・・・・	2 3

【Ⅳ. 調査結果のまとめと今後の取り組み】

1. 調査のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・	2 5
2. 今後の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・	2 6

I. アンケート実施について

1. 目的

- (1) 被爆・終戦から 79 年が経過し、被爆・戦争体験を持つ人の高齢化に伴い、今後ますます体験を聞く機会が少なくなると思われる中、時津町の子どもたちの平和に関する意識等について調査する。
- (2) アンケートに回答することで、子どもたちに「平和」「戦争」「原爆」について考える機会としてもらう。
- (3) 子どもたちの意識の変化について把握する必要があることから、3 年ごとに継続して同様の調査を行う。

以上のことを目的とし、町立小中学校の児童・生徒を対象にアンケートを実施した。本アンケートは、平成 18 年度に「被爆体験 DVD」を製作するにあたり、時津町の子どもたちの平和に関する意識調査を実施したことをきっかけに始まり、今回で 6 回目の実施となる。

これまでの実施状況は下記のとおり。

	実施期間	対象	回答数(人)		
			小学校	中学校	総数
第 1 回	平成 19 年 3 月	町立小学校 4 校・中学校 2 校の児童・生徒 (調査実施日に欠席した児童・生徒を除く)	1,844	769	2,613
第 2 回	平成 25 年 2 月		1,775	891	2,666
第 3 回	平成 27 年 6 月		1,758	842	2,600
第 4 回	平成 30 年 9 月		1,720	839	2,559
第 5 回	令和 3 年 9 月		1,657	792	2,449
第 6 回	令和 6 年 9 月		1,486	722	2,208

設問項目については、子どもたちの意識の変化について把握するため、同内容の調査を継続して行っている。

なお、これまでの実施状況を見てみると実施月にばらつきがあるため、第 4 回から、児童・生徒の意識が高い時期であること、協力をお願いする学校が実施しやすい時期であることから、9 月に統一して行うこととしている。

令和 6 年度は、グーグルフォームでのアンケート実施をおこなった。小学 1 年生及びタブレット操作が難しいと申し出があったクラスにおいては、紙アンケートで実施した。

また、令和 6 年度より性別の問いを廃止した。

2. アンケート実施日

令和 6 年 9 月 1 日～30 日

3. 対象

時津町立小中学校の児童・生徒（小学校4校，中学校2校）

※アンケート調査実施日に欠席した児童・生徒を除く。

Ⅱ. 集計結果

1. あなたのことについて教えてください。

町立学校6校（小学校4校、中学校2校）の児童・生徒、計2,208人がアンケートに回答した。

【令和6年度】 (単位：人)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
計	272	231	237	280	222	244	235	268	219	2,208

【令和3年度】 (単位：人)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
計	287	256	278	266	309	261	265	288	239	2,449

2. 次のできごとの年月日と時間を答えてください。

(1) 広島への原爆投下

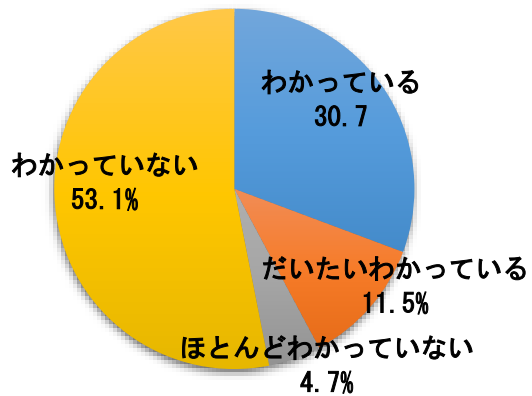
広島に原子爆弾が投下された年月日と時間について、回答内容を「わかっている」「だいたいわかっている」「ほとんどわかっていない」「わかっていない」の4区分に分け、学年ごとに集計したところ、次の結果となった。

広島への原爆投下日時：1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分

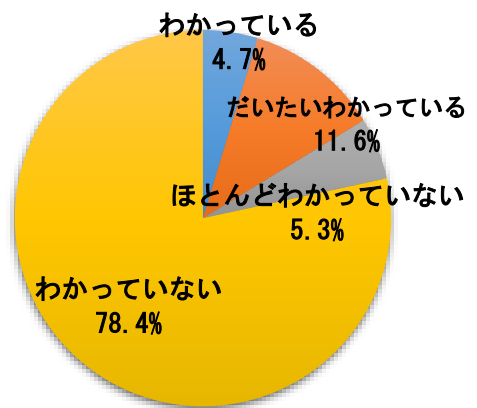
（上段：人数、下段：％）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
年月日、時間正答	4	1	7	27	33	75	74	134	107	462
	1.5	0.4	2.9	9.7	14.9	30.7	31.5	50.0	48.8	20.9
年月日正答	11	4	8	20	27	31	25	38	51	215
	4.0	1.7	3.4	7.1	12.1	12.7	10.6	14.2	23.3	9.8
わかっている	15	5	15	47	60	106	99	172	158	677
	5.5	2.1	6.3	16.8	27.0	43.4	42.1	64.2	72.1	30.7
月日、時間正答	9	2	4	11	6	5	8	11	1	57
	3.3	0.9	1.7	3.9	2.7	2.0	3.4	4.1	0.5	2.6
月日のみ正答	27	28	16	31	20	16	26	21	13	198
	9.9	12.1	6.8	11.1	9.0	6.6	11.1	7.8	5.9	8.9
だいたいわかっている	36	30	20	42	26	21	34	32	14	255
	13.2	13.0	8.5	15.0	11.7	8.6	14.5	11.9	6.4	11.5
年、時間正答	0	1	2	6	3	3	1	5	3	24
	0.0	0.4	0.8	2.1	1.4	1.3	0.4	1.9	1.4	1.1
年のみ正答	10	5	13	7	5	10	7	3	5	65
	3.7	2.2	5.5	2.5	2.3	4.1	3.0	1.1	2.3	3.0
時間のみ正答	2	2	4	2	1	2	1	0	0	14
	0.7	0.9	1.7	0.7	0.4	0.8	0.4	0.0	0.0	0.6
ほとんどわかっていない	12	8	19	15	9	15	9	8	8	103
	4.4	3.5	8.0	5.3	4.1	6.2	3.8	3.0	3.7	4.7
不正解（無回答）	209	188	183	176	127	102	93	56	39	1,173
	76.9	81.4	77.2	62.9	57.2	41.8	39.6	20.9	17.8	53.1
わかっていない	209	188	183	176	127	102	93	56	39	1,173
	76.9	81.4	77.2	62.9	57.2	41.8	39.6	20.9	17.8	53.1
計	272	231	237	280	222	244	235	268	219	2,208
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

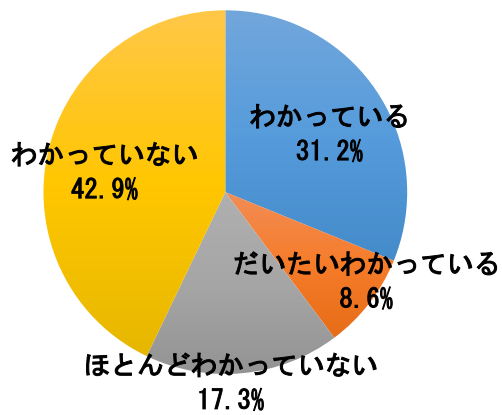
令和6年度 全体



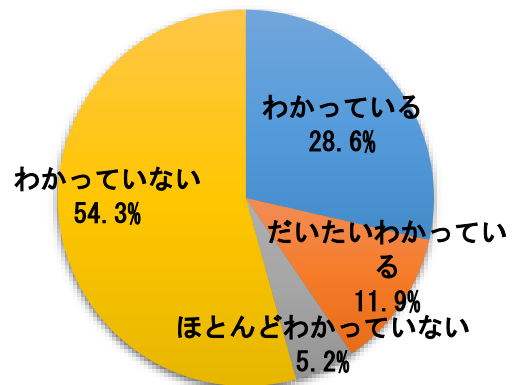
令和6年度 小学1～3年生



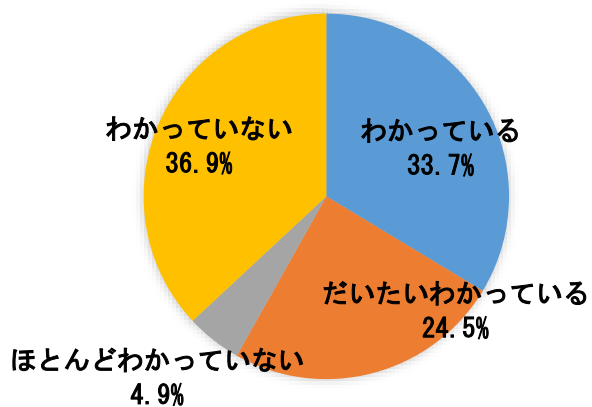
令和3年度 全体



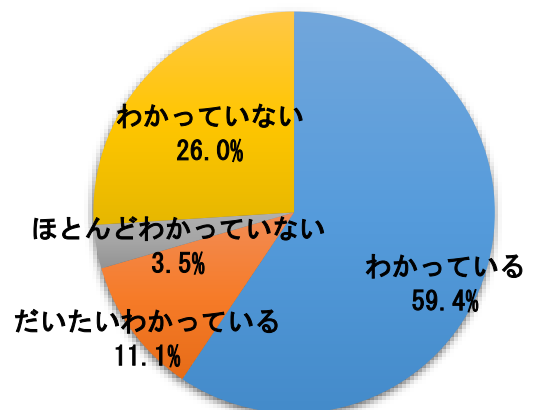
令和6年度 小学4～6年生



平成30年度 全体



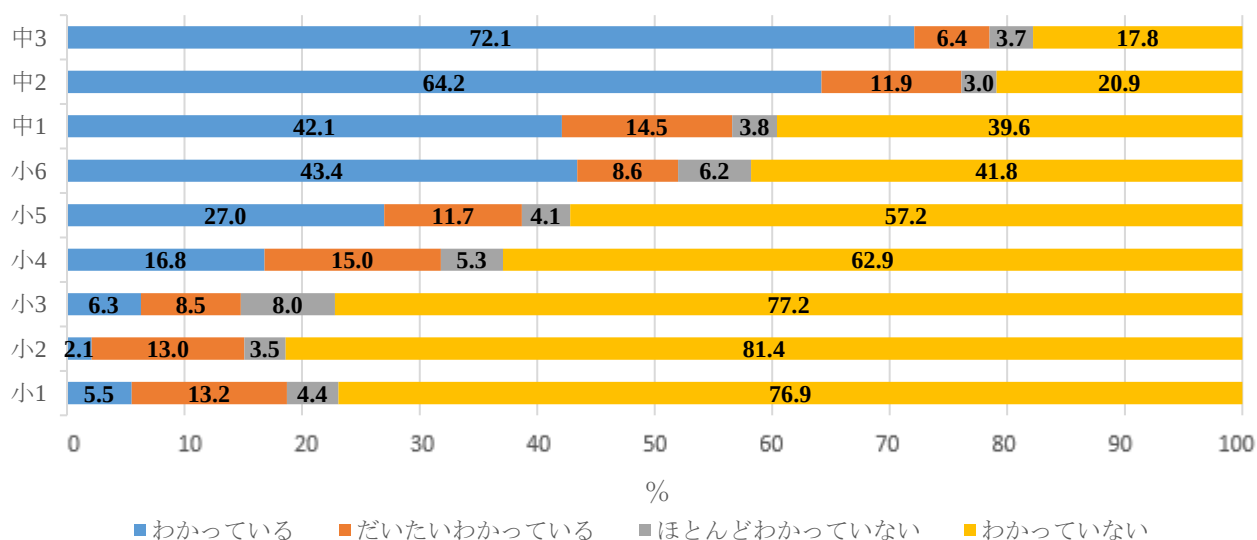
令和6年度 中学1～3年生



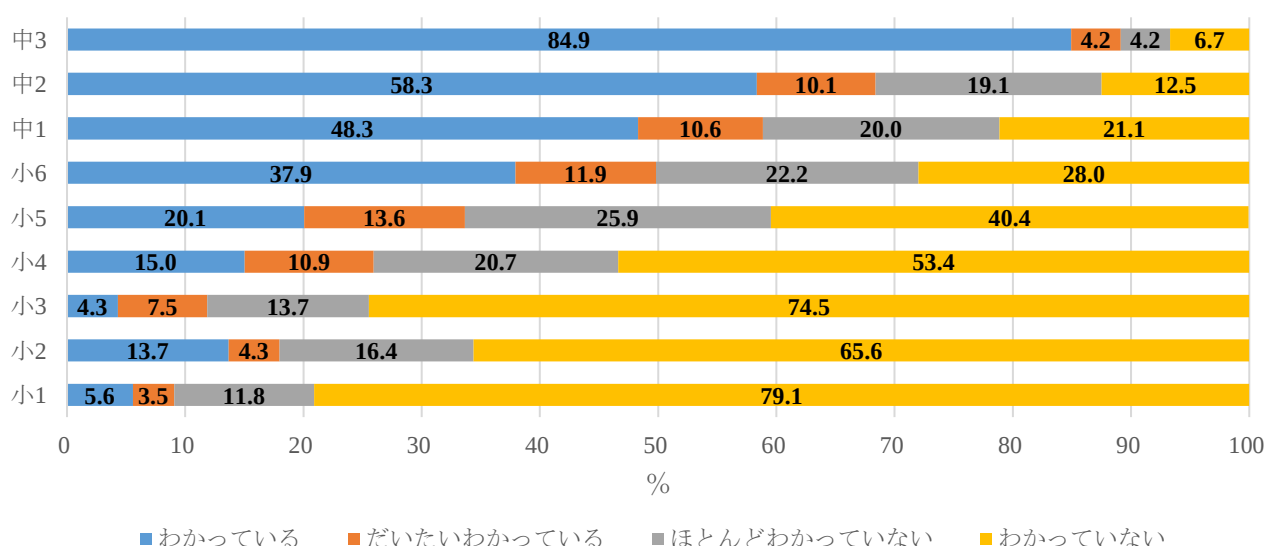
広島に原子爆弾が投下された年月日と時間について、「年月日」を正答した人（わかっている）が全体の 30.7%、「月日」が答えられた人（だいたいわかっている）は全体の 11.5%、「不正解・無回答（わかっていない）」が全体の 53.1%であった。平成 30 年度、令和 3 年度、令和 6 年度と年を追うごとに、「わかっている」の割合が低くなっている。

学年区分ごとの結果を見ると、小学 1～3 年生では正答率が低いものの、中学生になると「わかっている」「だいたいわかっている」人が 70.5%と高い比率になっている。

令和6年度



令和3年度



学年ごとに見ると「わかっている」人の比率は、中学 2 年生と小学 3～6 年生については、令和 3 年度を上回る結果となったが、それ以外は下回る結果となった。

(2) 長崎への原爆投下

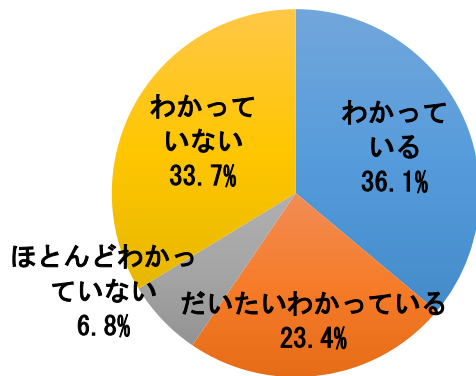
長崎に原子爆弾が投下された年月日と時間について、回答内容を「わかっている」「だいたいわかっている」「ほとんどわかっていない」「わかっていない」の4区分に分け、学年ごとに集計したところ、次の結果となった。

長崎への原爆投下日時：1945年（昭和20年）8月9日午前11時2分

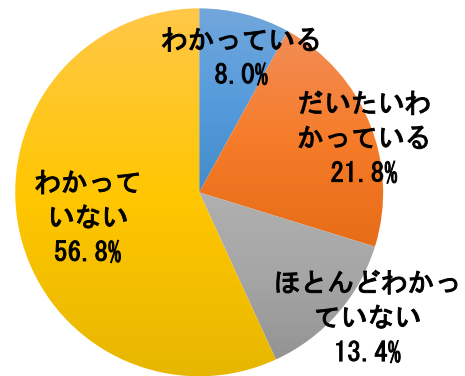
（上段：人数、下段：％）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
年月日、時間正答	7	10	26	54	63	122	112	163	147	704
	2.6	4.3	11.0	19.3	28.4	50.0	47.7	60.8	67.1	31.9
年月日正答	3	4	9	11	17	9	9	15	17	94
	1.1	1.7	3.8	3.9	7.6	3.7	3.8	5.6	7.8	4.2
わかっている	10	14	35	65	80	131	121	178	164	798
	3.7	6.0	14.8	23.2	36.0	53.7	51.5	66.4	74.9	36.1
月日、時間正答	30	28	36	53	45	45	48	38	20	343
	11.0	12.1	15.2	19.0	20.3	18.4	20.4	14.2	9.1	15.5
月日のみ正答	0	44	23	37	24	10	18	10	8	174
	0.0	19.1	9.7	13.2	10.8	4.1	7.7	3.7	3.7	7.9
だいたいわかっている	30	72	59	90	69	55	66	48	28	517
	11.0	31.2	24.9	32.2	31.1	22.5	28.1	17.9	12.8	23.4
年、時間正答	42	0	3	2	1	4	2	1	1	56
	15.5	0.0	1.3	0.7	0.5	1.6	0.9	0.4	0.5	2.5
年のみ正答	5	1	2	2	2	6	0	2	1	21
	1.8	0.4	0.8	0.7	0.9	2.5	0.0	0.7	0.5	1.0
時間のみ正答	6	13	27	5	7	5	5	1	3	72
	2.2	5.7	11.4	1.8	3.1	2.0	2.1	0.4	1.3	3.3
ほとんどわかっていない	53	14	32	9	10	15	7	4	5	149
	19.5	6.1	13.5	3.2	4.5	6.1	3.0	1.5	2.3	6.8
不正解（無回答）	179	131	111	116	63	43	41	38	22	744
	65.8	56.7	46.8	41.4	28.4	17.7	17.4	14.2	10.0	33.7
わかっていない	179	131	111	116	63	43	41	38	22	744
	65.8	56.7	46.8	41.4	28.4	17.7	17.4	14.2	10.0	33.7
計	272	231	237	280	222	244	235	268	219	2,208
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

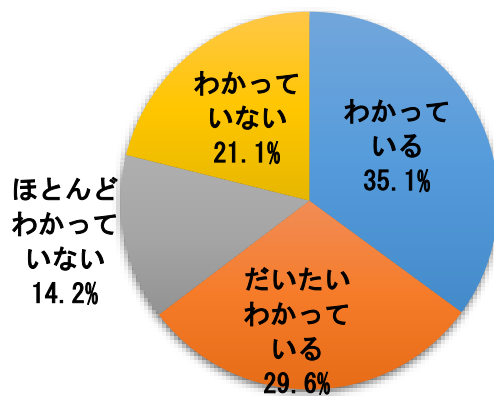
令和6年度 全体



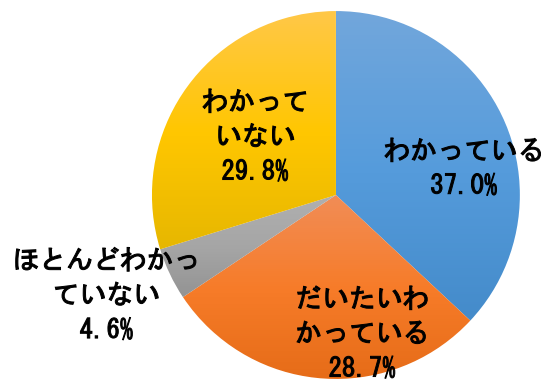
令和6年度 小学1～3年生



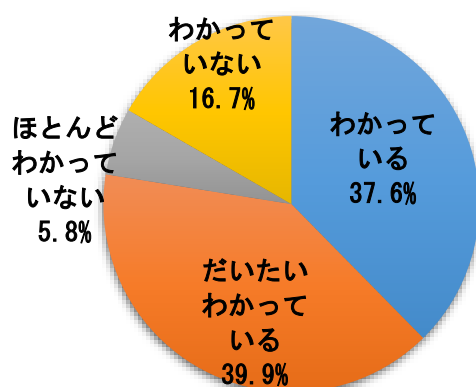
令和3年度 全体



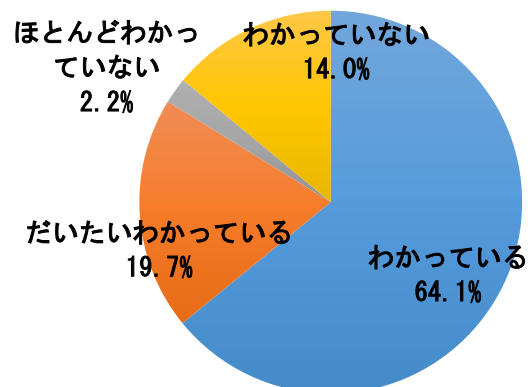
令和6年度 小学4～6年生



平成30年度 全体



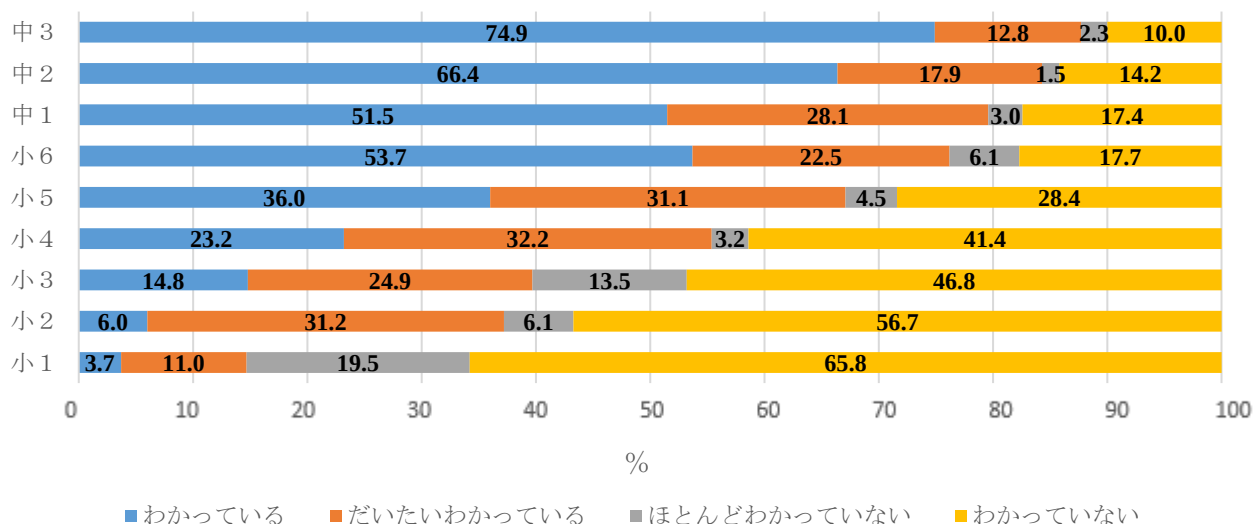
令和6年度 中学1～3年生



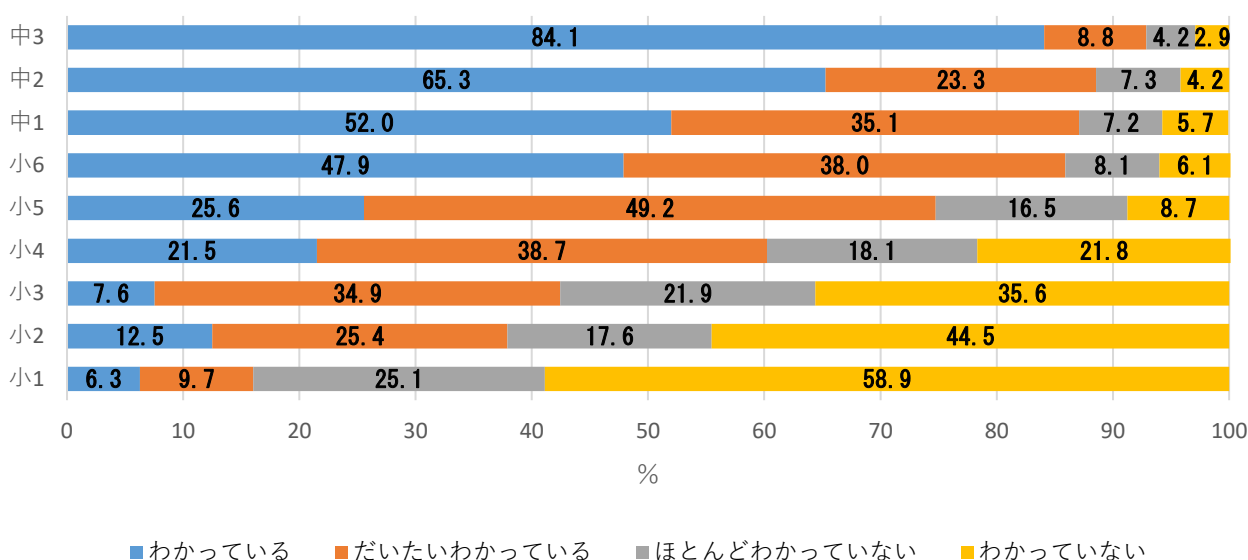
長崎に原子爆弾が投下された年月日と時間について、「年月日」を正答した人（「わかっている」）が全体の 36.1%、「月日」が答えられた人（「だいたいわかっている」）は全体の 23.4% となり、「不正解・無回答（わかっていない）」が全体の 33.7% であった。地元の長崎に関することであるため、広島の前爆投下に関する設問と比較すると高い正答率になっている。

学年区分ごとの結果を見ると、「わかっている」「だいたいわかっている」人が、小学 4～6 年生では 65.7%、中学生では 83.8% と高い比率になっている。

令和6年度



令和3年度



学年ごとに見ると、「わかっている」人の比率は、中学 2 年生と小学 3～6 年生では、令和 3 年度を上回る結果となった。

(3) 第二次世界大戦（太平洋戦争）終戦

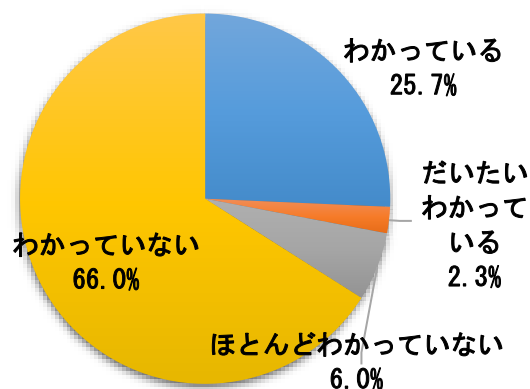
第二次世界大戦（太平洋戦争）終戦年月日について、回答内容を「わかっている」「だいたいわかっている」「ほとんどわかっている」「わかっている」の4区分に分け、学年ごとに集計したところ、次の結果となった。

第二次世界大戦（太平洋戦争）終戦年月日：1945年（昭和20年）8月15日

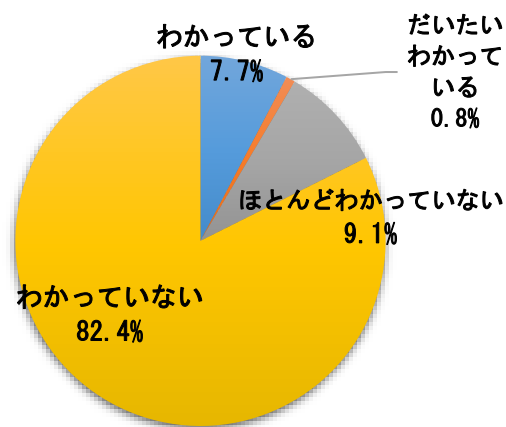
（上段：人数、下段：％）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
年月日正答	1	4	8	37	29	66	66	110	121	442
	0.3	1.7	3.4	13.2	13.1	27.0	28.1	41.0	55.3	20.0
月日正答	13	19	12	31	7	14	13	11	6	126
	4.8	8.3	5.0	11.1	3.1	5.7	5.5	4.1	2.7	5.7
わかっている	14	23	20	68	36	80	79	121	127	568
	5.1	10.0	8.4	24.3	16.2	32.7	33.6	45.1	58.0	25.7
年月正答	1	3	2	6	8	8	5	10	7	50
	0.4	1.3	0.8	2.1	3.6	3.3	2.1	3.7	3.2	2.3
だいたいわかっている	1	3	2	6	8	8	5	10	7	50
	0.4	1.3	0.8	2.1	3.6	3.3	2.1	3.7	3.2	2.3
年日正答	1	0	0	1	0	1	1	0	0	4
	0.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	0.2
年のみ正答	2	0	0	0	6	8	6	1	9	32
	0.7	0.0	0.0	0.0	2.7	3.3	2.6	0.4	4.1	1.4
月のみ正答	17	12	31	8	5	3	4	7	2	89
	6.3	5.2	13.1	2.9	2.3	1.2	1.7	2.6	0.9	4.0
日のみ正答	1	0	3	1	0	0	1	1	1	8
	0.4	0.0	1.3	0.4	0.0	0.0	0.4	0.4	0.5	0.4
ほとんどわかっている	21	12	34	10	11	12	12	9	12	133
	7.7	5.2	14.4	3.6	5.0	4.9	5.1	3.4	5.5	6.0
不正解（無回答）	236	193	181	196	167	144	139	128	73	1,457
	86.8	83.5	76.4	70.0	75.2	59.1	59.2	47.8	33.3	66.0
わかっている	236	193	181	196	167	144	139	128	73	1,457
	86.8	83.5	76.4	70.0	75.2	59.1	59.2	47.8	33.3	66.0
計	272	231	237	280	222	244	235	268	219	2,208
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

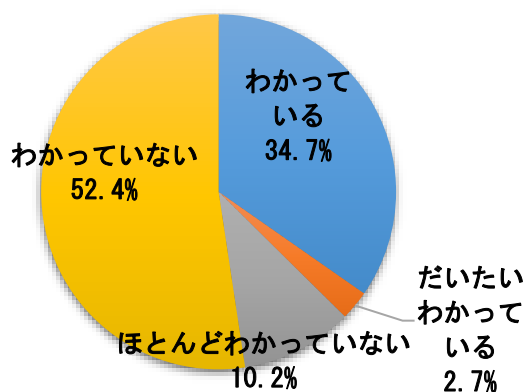
令和6年度 全体



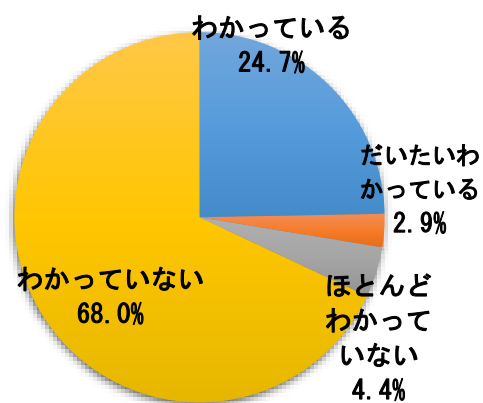
令和6年度 小学1～3年生



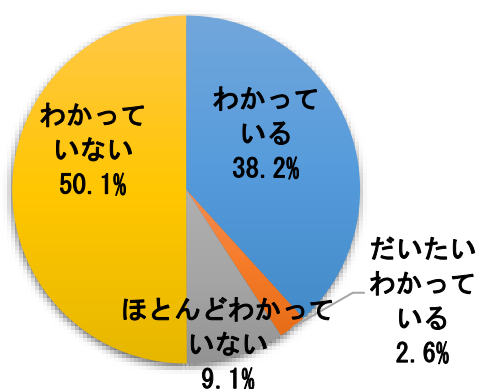
令和3年度 全体



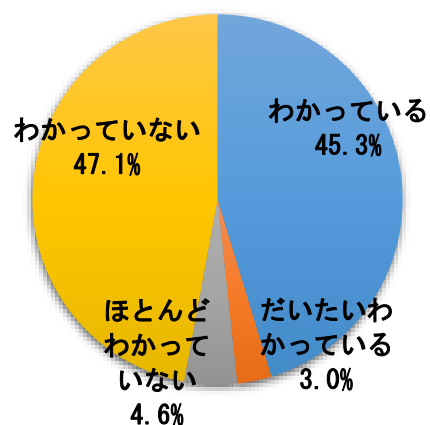
令和6年度 小学4～6年生



平成30年度 全体



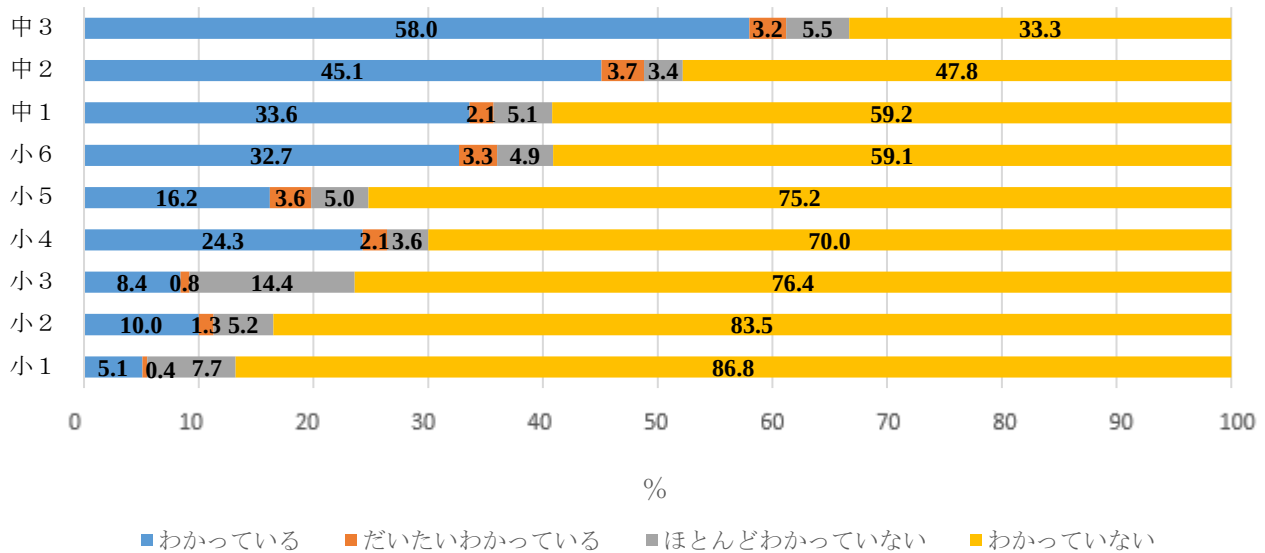
令和6年度 中学1～3年生



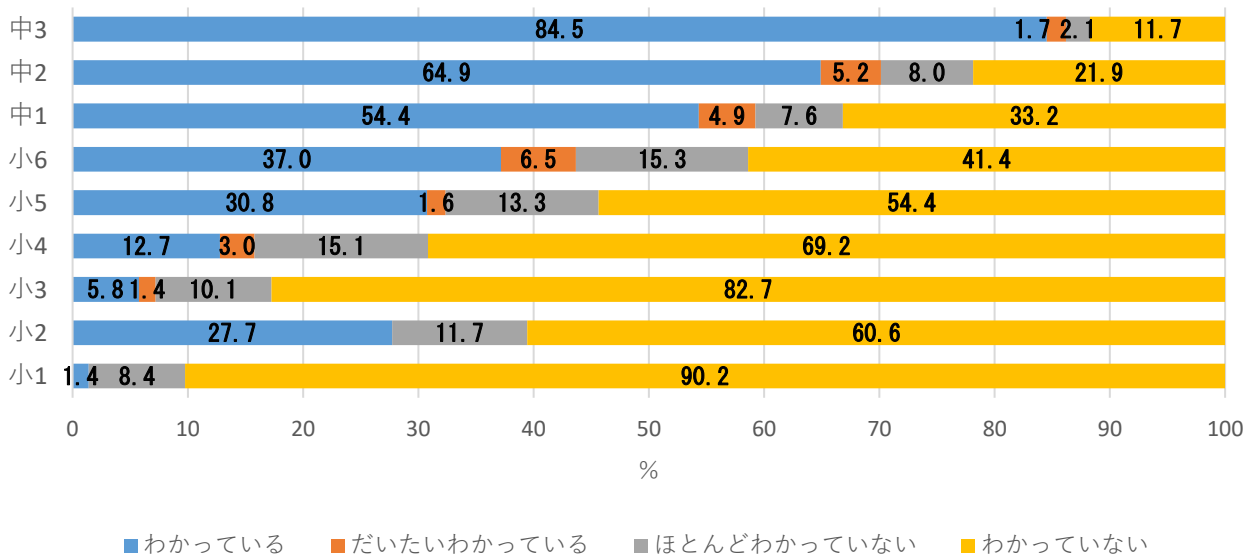
終戦の年月日について、「月日」が答えられた人（「わかっていない」）が全体の25.7%に対し、「不正解・無回答（わかっていない）」が全体の66.0%となっている。平成30年度、令和3年度、令和6年度と比較し、年を追うごとに「わかっていない」人の割合が格段に減ってきている。

広島や長崎への原爆投下についての正答率と比較すると、終戦日についての正答率が最も低く、広島や長崎に原爆が投下されたことは知っていても、戦争終結に至るまでの一連の出来事についてはあまり理解していないと思われる。

令和6年度



令和3年度



学年ごとに見ると、「知っている」人の比率が、小学1年生、3年生、4年生は令和3年度を上回る結果となった。

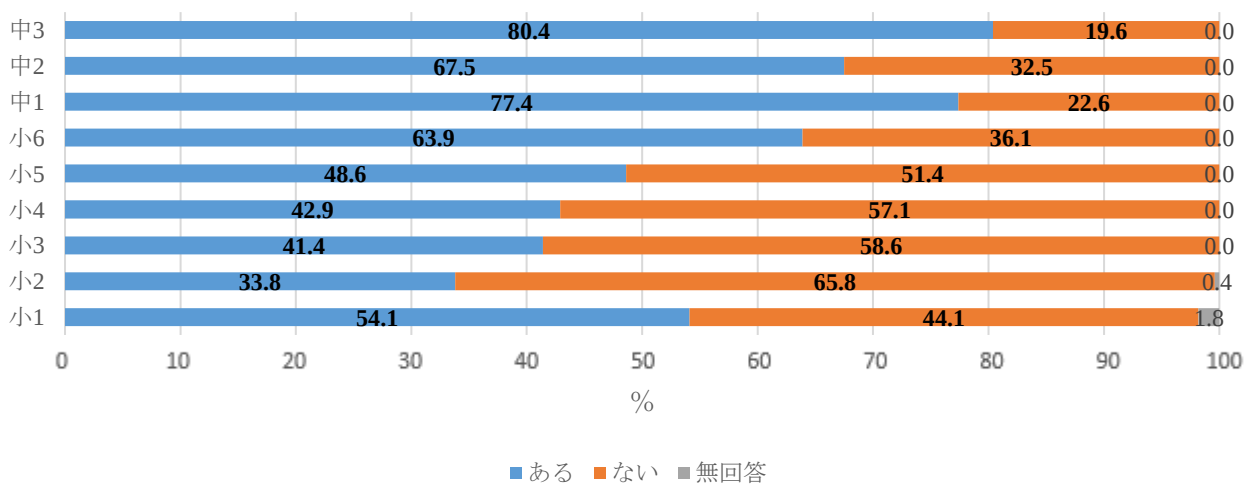
3. 原爆被爆者から原爆や戦争についての話を聞いたことがありますか。

原爆被爆者から原爆や戦争についての話を聞いたことがあるかどうかの質問について、学年ごとに集計したところ、次の結果となった。

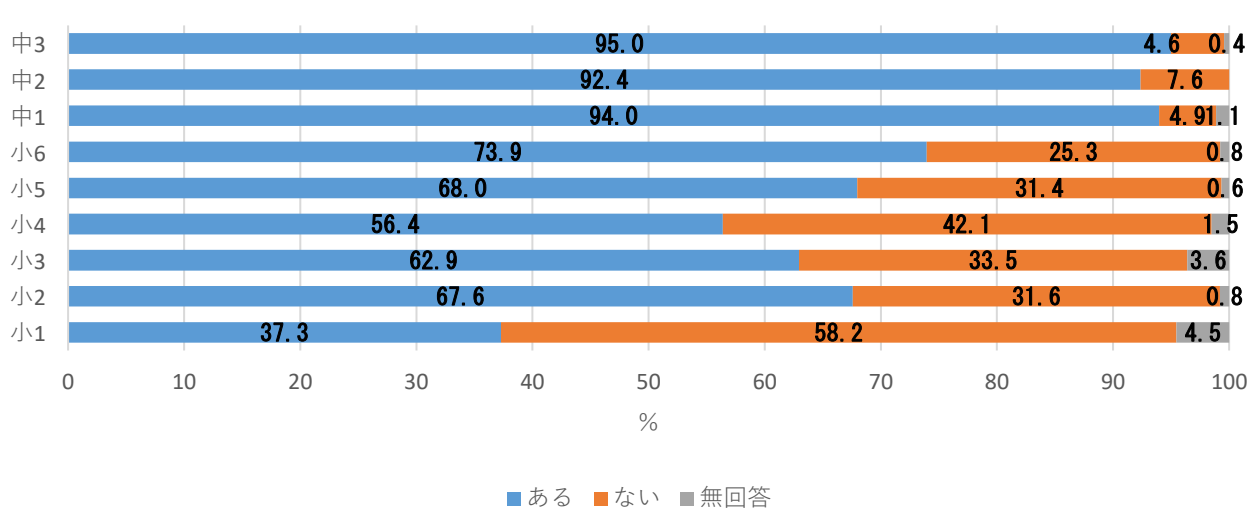
(上段：人数、下段：%)

	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	計
ある	147	78	98	120	108	156	182	181	176	1,246
	54.1	33.8	41.4	42.9	48.6	63.9	77.4	67.5	80.4	56.4
ない	120	152	139	160	114	88	53	87	43	956
	44.1	65.8	58.6	57.1	51.4	36.1	22.6	32.5	19.6	43.3
無回答	5	1	0	0	0	0	0	0	0	6
	1.8	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
計	272	231	237	280	222	244	235	268	219	2,208
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

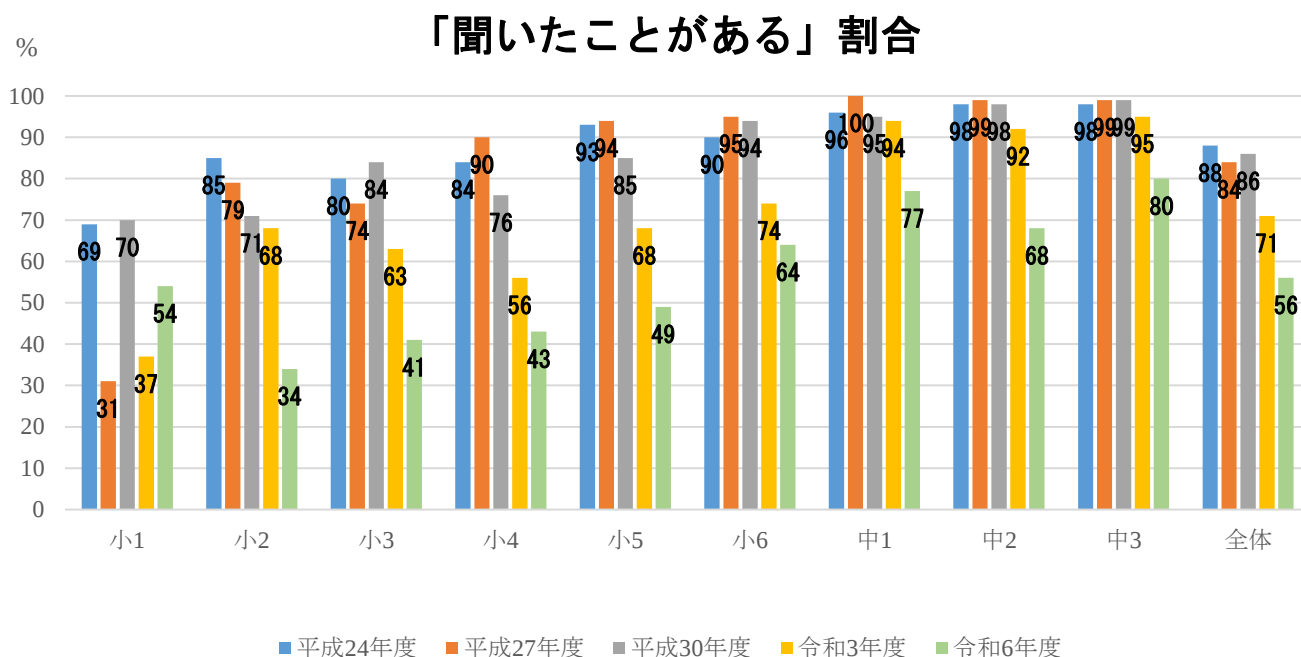
令和6年度



令和3年度



全体で 56.4%の児童・生徒が「話を聞いたことがある」と回答している。学年ごとに令和 3 年度と比較すると、小学 1 年生以外下回る結果となった。



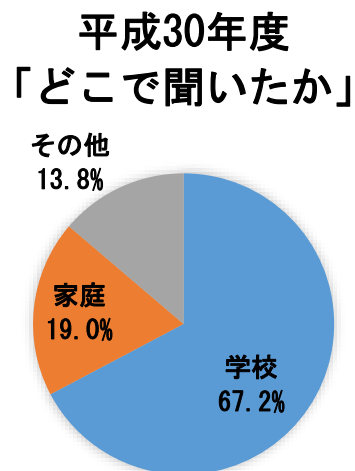
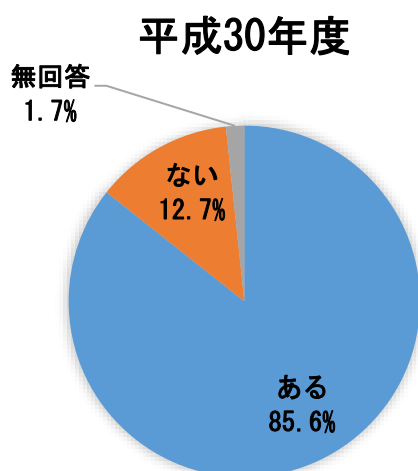
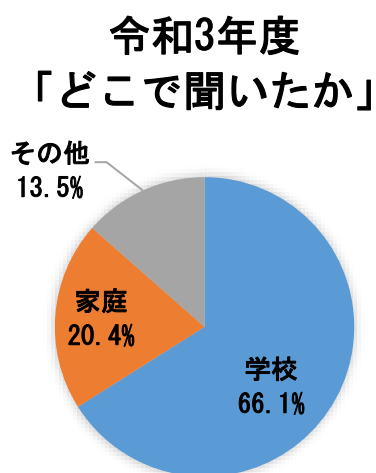
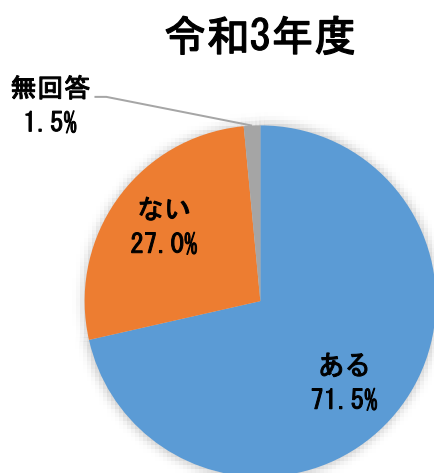
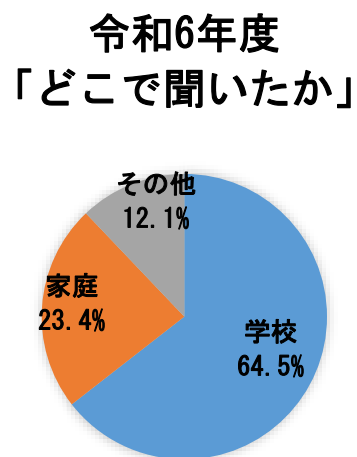
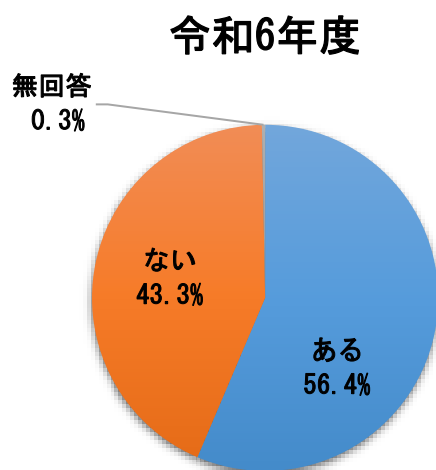
平成 24 年度調査からの推移を見ると、全体的に減少傾向にある。これは、身近に原爆被爆者が減っていることが原因の一つと考えられる。

「ある」と答えた人は、どこで聞きましたか。※複数回答

(上段：人数、下段：%)

	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	計
学校	106	41	64	71	64	125	149	158	161	939
	68.8	47.1	53.3	50.7	50.8	67.5	69.0	73.5	75.2	64.5
家庭	36	35	35	46	38	29	42	41	39	341
	23.4	40.2	29.2	32.9	30.2	15.7	19.4	19.1	18.2	23.4
その他	12	11	21	23	24	31	25	16	14	177
	7.8	12.7	17.5	16.4	19.0	16.8	11.6	7.4	6.6	12.1
計	154	87	120	140	126	185	216	215	214	1,457
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

原爆被爆者から原爆や戦争についての話を聞いたことが「ある」と回答した児童・生徒のうち、64.5%が「学校」、23.4%が「家庭」、12.1%が「その他の場所」となっている。どの学年も「学校」で聞いた人が多くなっている。



過去の調査と比較をすると、「場所」による比率に大きな差はなかった。

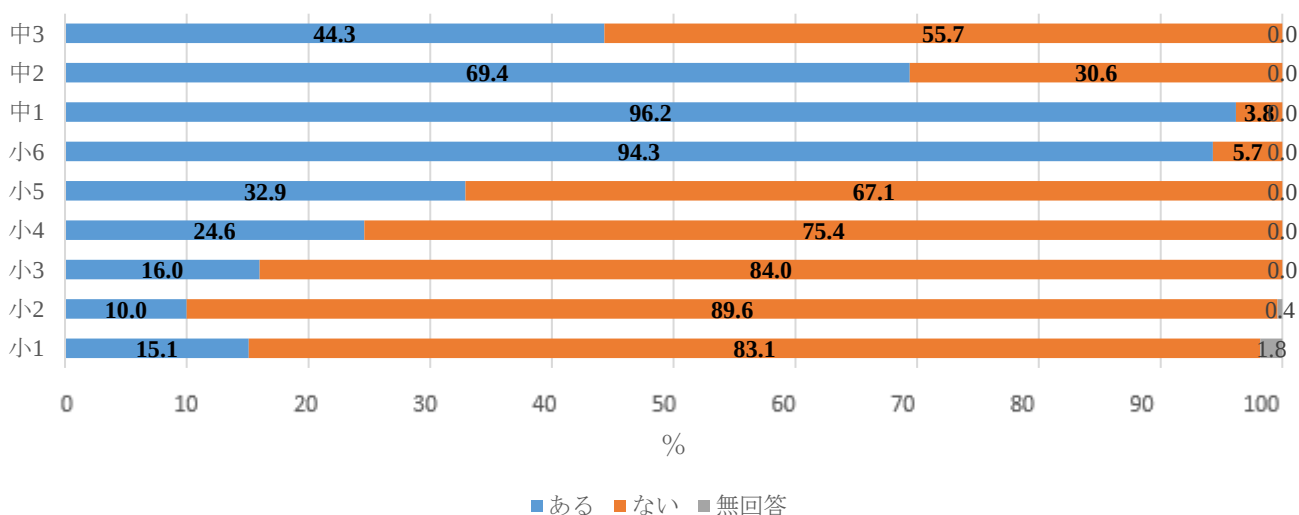
4. 原爆資料館を見学したことがありますか。

原爆資料館を見学したことがあるかどうかの質問について、学年ごとに集計したところ、次の結果となった。

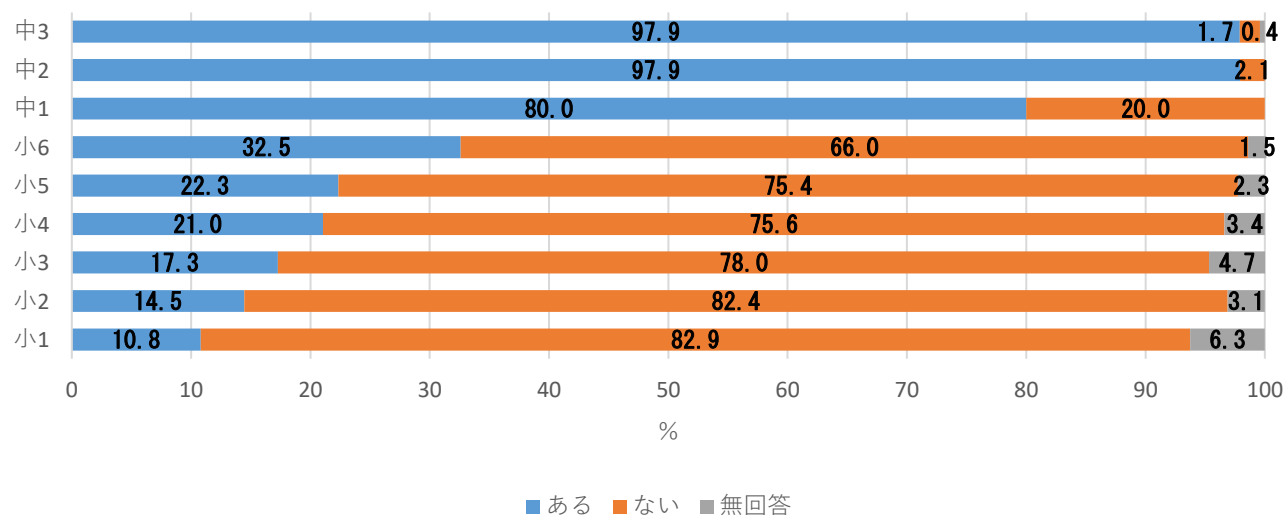
(上段：人数、下段：%)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
ある	41	23	38	69	73	230	226	186	97	983
	15.1	10.0	16.0	24.6	32.9	94.3	96.2	69.4	44.3	44.5
ない	226	207	199	211	149	14	9	82	122	1,219
	83.1	89.6	84.0	75.4	67.1	5.7	3.8	30.6	55.7	55.2
無回答	5	1	0	0	0	0	0	0	0	6
	1.8	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
計	272	231	237	280	222	244	235	268	219	2,208
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

令和6年度

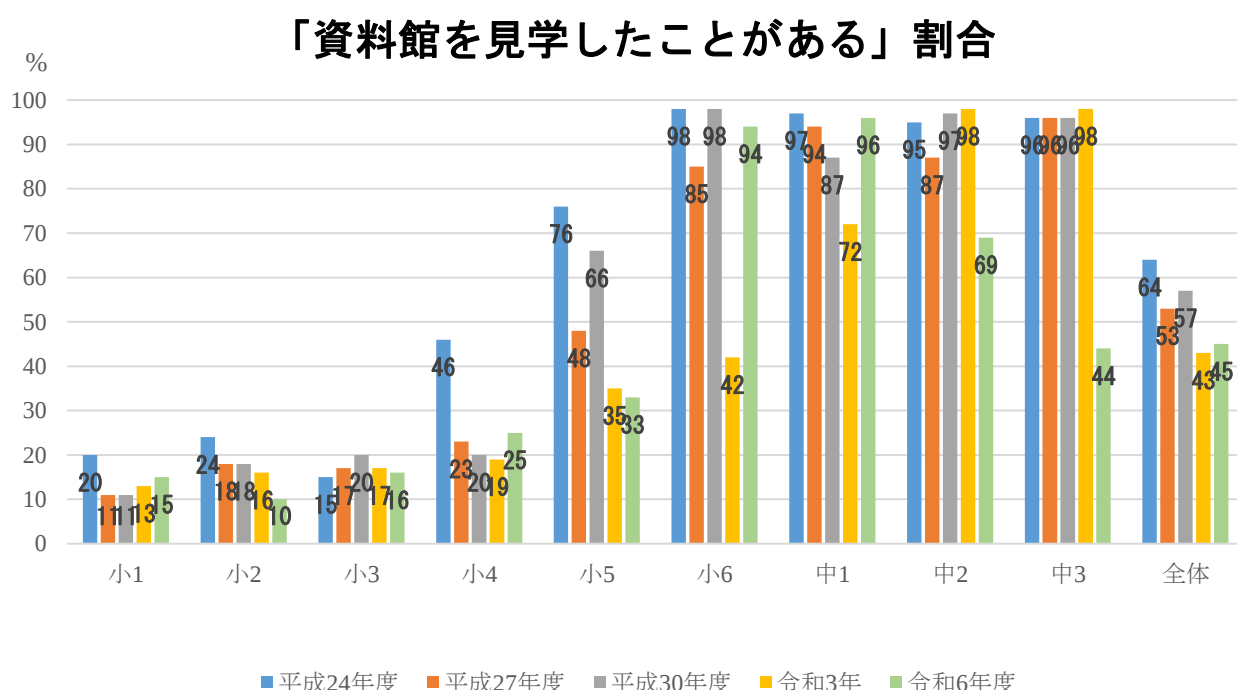


令和3年度



「原爆資料館を見学したことがある」と回答した児童・生徒は、全体で44.5%。小学6年生が94.3%、中学1年生が96.2%と他学年に比べて高い比率になっている。学年ごとの割合を令和3年度と比較をすると、小学1年生、4年生、6年生、中学1年生が上がっているが、その他の学年は下がっている。

中学2年生が69.4%、中学3年生が44.3%の数値となっているのは、該当生徒が小学5年生であった令和2年度及び令和3年度と新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、野外学習が制限されたことにより、例年に比べて低い数値になったと考えられる。

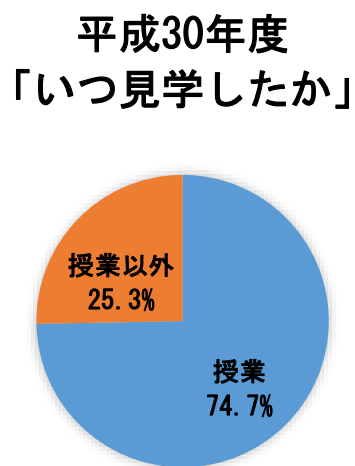
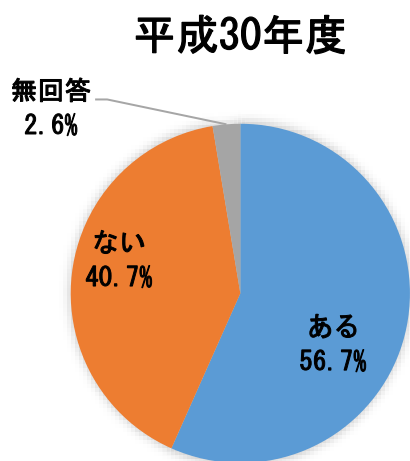
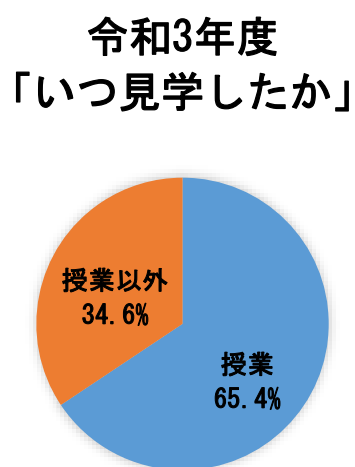
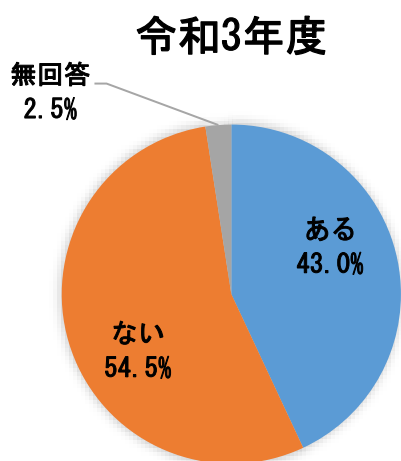
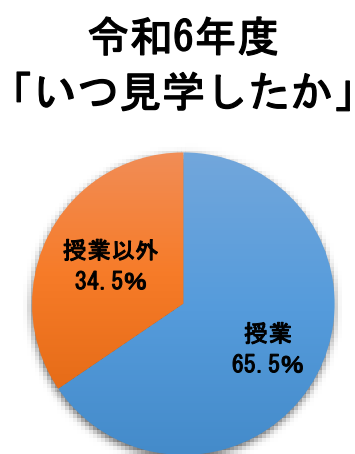
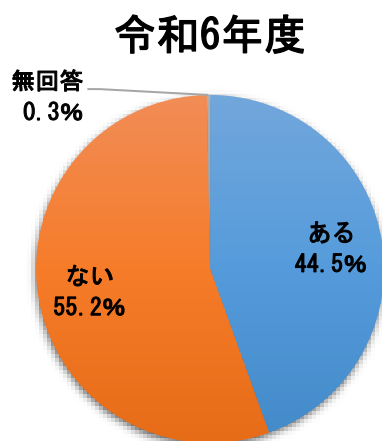


（「ある」と答えた人）いつ見学しましたか。 ※複数回答

（上段：人数、下段：％）

	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	計
授業	8	6	1	11	36	224	223	141	54	704
	23.5	26.1	2.6	15.7	45.6	87.8	86.8	67.8	49.1	65.5
授業以外	26	17	37	59	43	31	34	67	56	370
	76.5	73.9	97.4	84.3	54.4	12.2	13.2	32.2	50.9	34.5
計	34	23	38	70	79	255	257	208	110	1,074
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

原爆資料館を見学したことが「ある」と回答した児童・生徒にいつ見学したのか質問したところ、65.5%が「授業」という結果となった。



令和3年度調査と同様、「授業以外」で見学したと答えた児童・生徒の割合が、過去調査と比較すると高い結果となった。小中学生への平和教育は、学校の授業に頼る部分が大いと言え、限られた時間の中での取り組みにも限界がある。こうした状況下での今回の結果は、今後の平和教育の在り方につながる大きな結果だと言える。

5. あなたの学校に「被爆クスノキ2世」が植えられていることを知っていますか？

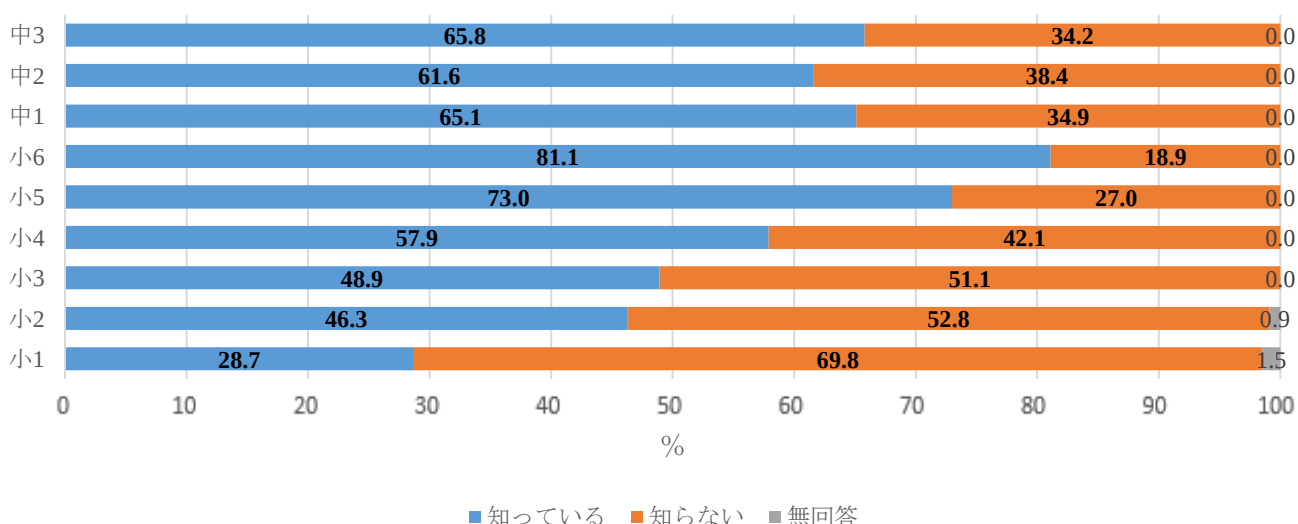
時津町は被爆地指定地域であり、町木は「クスノキ」（平成元年7月1日制定）であることから、町内の子どもたちに、原爆の悲惨さと生命の素晴らしさ、平和の大切さを伝え、併せて、ふるさと時津町への関心を持ってもらうことを目的として、平成15年、町立小中学校、町立保育所、文化の森公園に「被爆クスノキ2世」の植樹を行った。平成29年度には、老朽化した案内看板の建て替えを行っている。

この「被爆クスノキ2世」について、校内に植えられていることを知っているかどうかの質問を行ったところ、次の結果となった。

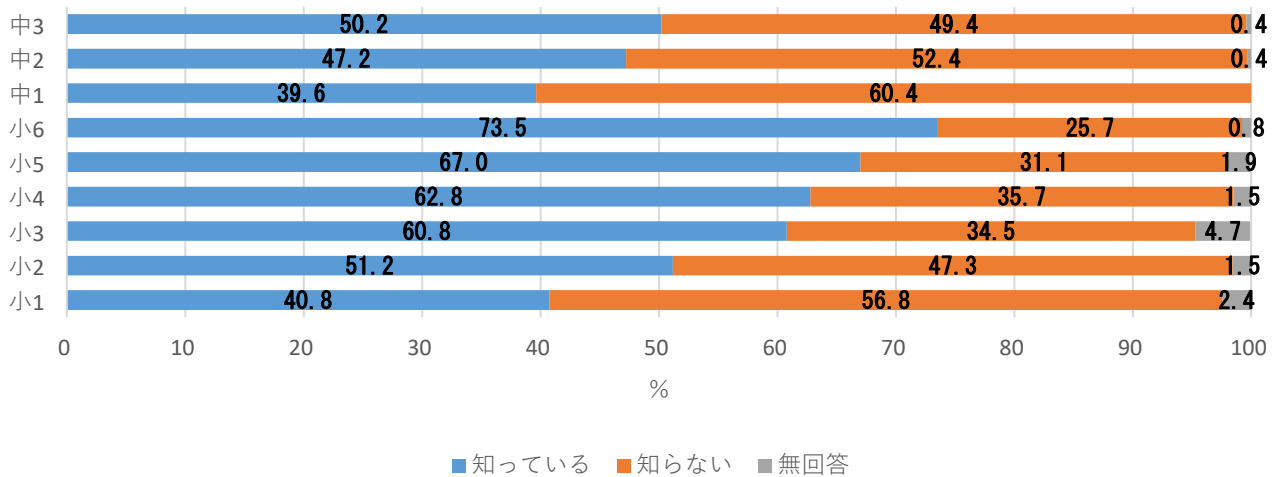
(上段：人数、下段：%)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
知っている	78 28.7	107 46.3	116 48.9	162 57.9	162 73.0	198 81.1	153 65.1	165 61.6	144 65.8	1,285 58.2
知らない	190 69.8	122 52.8	121 51.1	118 42.1	60 27.0	46 18.9	82 34.9	103 38.4	75 34.2	917 41.5
無回答	4 1.5	2 0.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 0.3
計	272 100.0	231 100.0	237 100.0	280 100.0	222 100.0	244 100.0	235 100.0	268 100.0	219 100.0	2,208 100.0

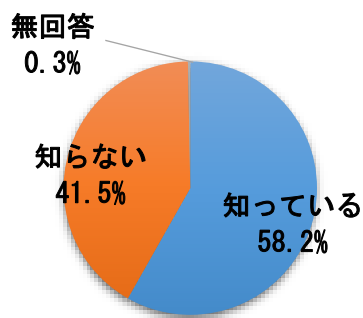
令和6年度



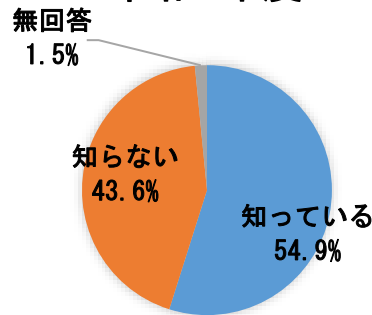
令和3年度



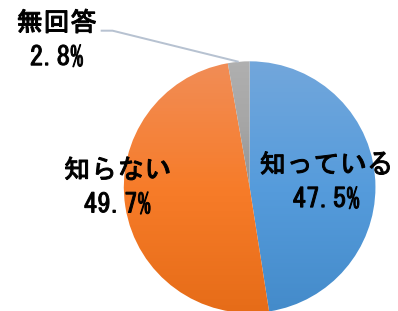
令和6年度



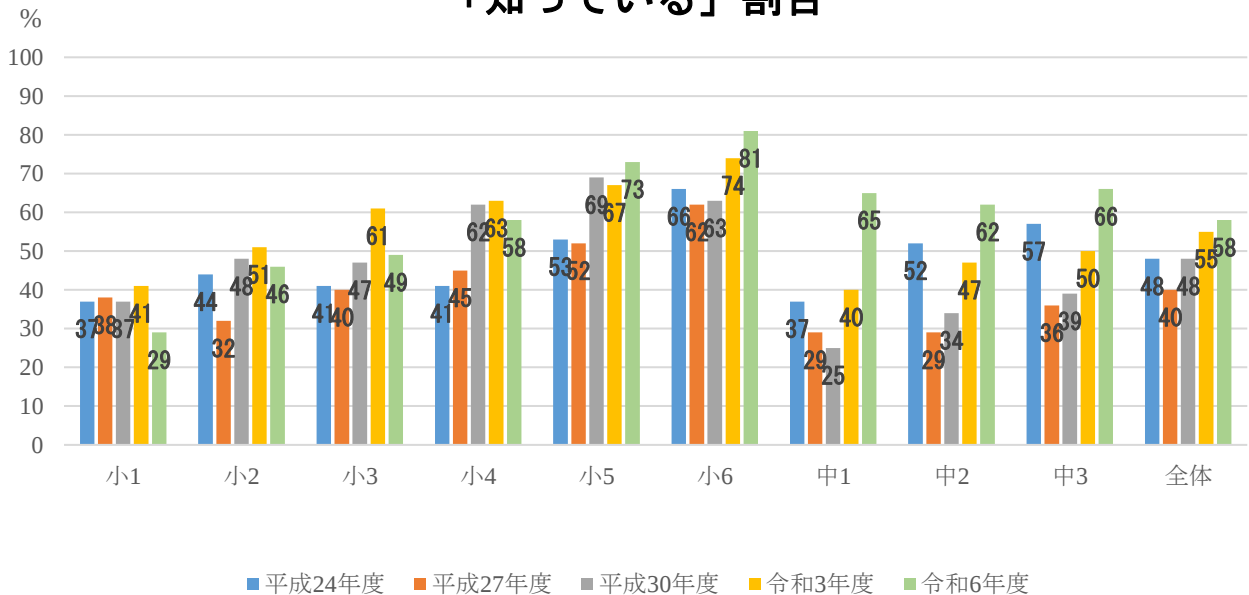
令和3年度



平成30年度



「知っている」割合



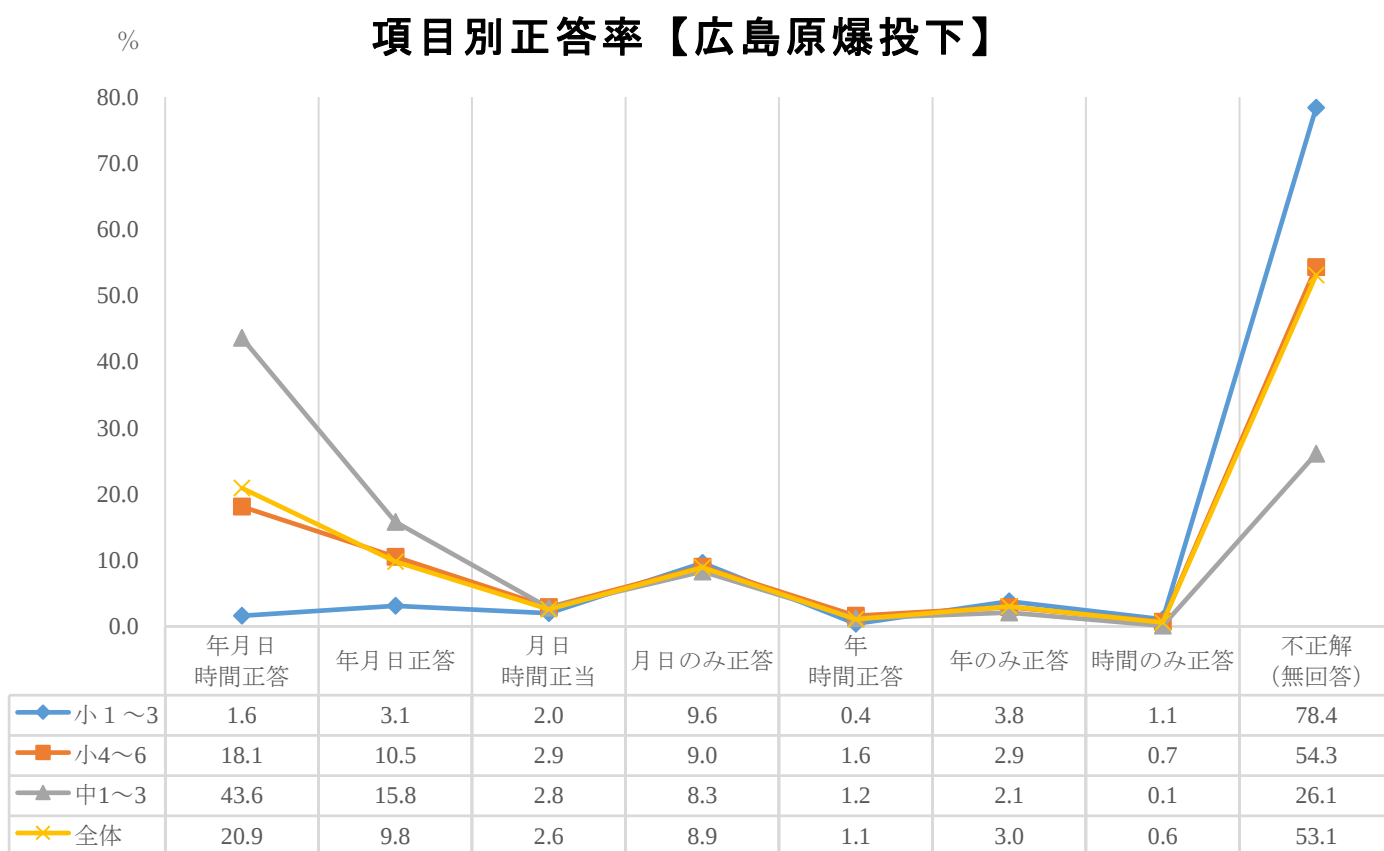
学年ごとに見ると、小学4～6年生、中学1～3年生が過半数を超える高い割合となった。

Ⅲ. 個別項目

1. 「広島への原爆投下」項目別回答状況

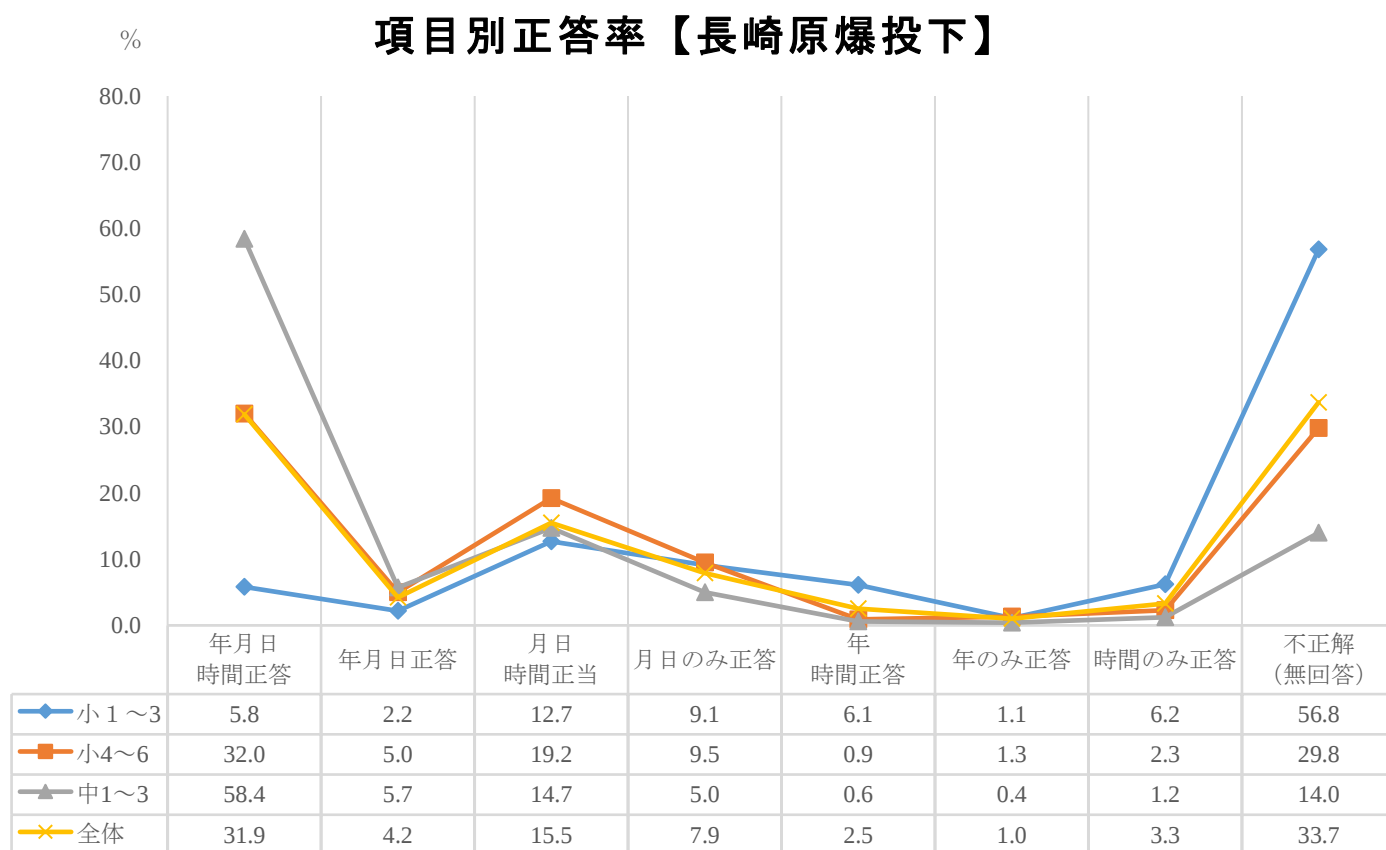
「広島への原爆投下」項目別回答状況についての結果は次のとおり。

広島への原爆投下に関しては、不正解(無回答)を除き、「年月日、時間」の正答率が最も高いものの、「年」または「時間」にかかる正答率は落ち込む傾向にある。月日は知っていても投下された「年」または「時間」が答えられていないことが読み取れる。



2. 「長崎への原爆投下」項目別回答状況

「長崎への原爆投下」項目別回答状況についての結果は次のとおり。



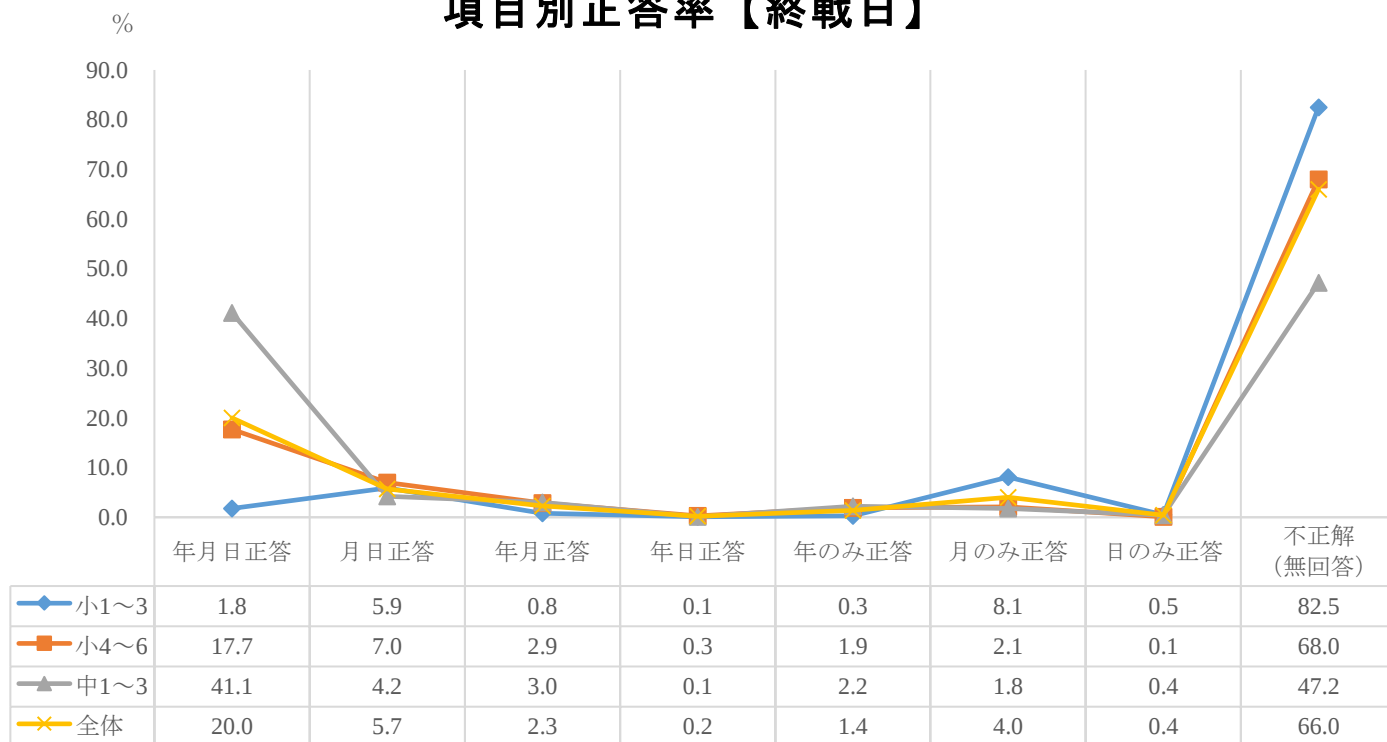
長崎への原爆投下に関しては、「年月日、時間」「月日、時間」について多くの児童・生徒が回答できている一方で、特に小学1～3年生までの児童の「不正解（無回答）」の比率が高いことがわかる。

また、長崎への原爆投下日時である8月9日 11時2分は覚えているが、昭和20年や1945年が回答できていない傾向にある。

3. 「終戦日」項目別回答状況

「第二次世界大戦（太平洋戦争）終了」項目別回答状況についての結果は次のとおり。

項目別正答率【終戦日】



終戦日に関しては、広島・長崎への原爆投下日と比較すると、不正解（無回答）の割合が高く、第二次世界大戦と原爆投下が関連付けられていない人が多いことが言える。

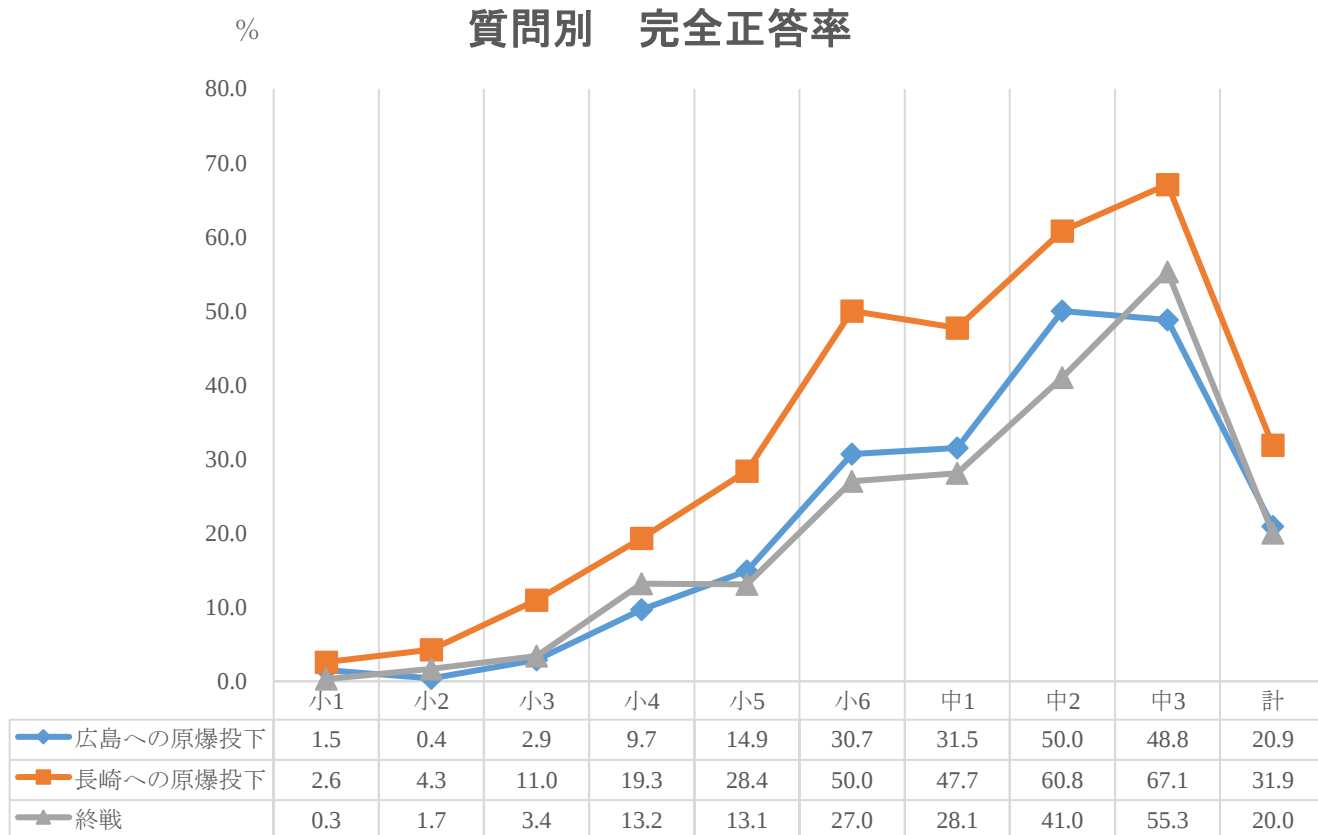
4. 質問別 完全正答率

各質問別に完全正答ができた割合を比較すると、次のとおり。

(上段：人数、下段：各学年回答人数に対する完全正答率)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
広島への原爆投下 年月日、時間正答	4 1.5	1 0.4	7 2.9	27 9.7	33 14.9	75 30.7	74 31.5	134 50.0	107 48.8	462 20.9
長崎への原爆投下 年月日、時間正答	7 2.6	10 4.3	26 11.0	54 19.3	63 28.4	122 50.0	112 47.7	163 60.8	147 67.1	704 31.9
第二次世界大戦終戦 年月日正答	1 0.3	4 1.7	8 3.4	37 13.2	29 13.1	66 27.0	66 28.1	110 41.0	121 55.3	442 20.0

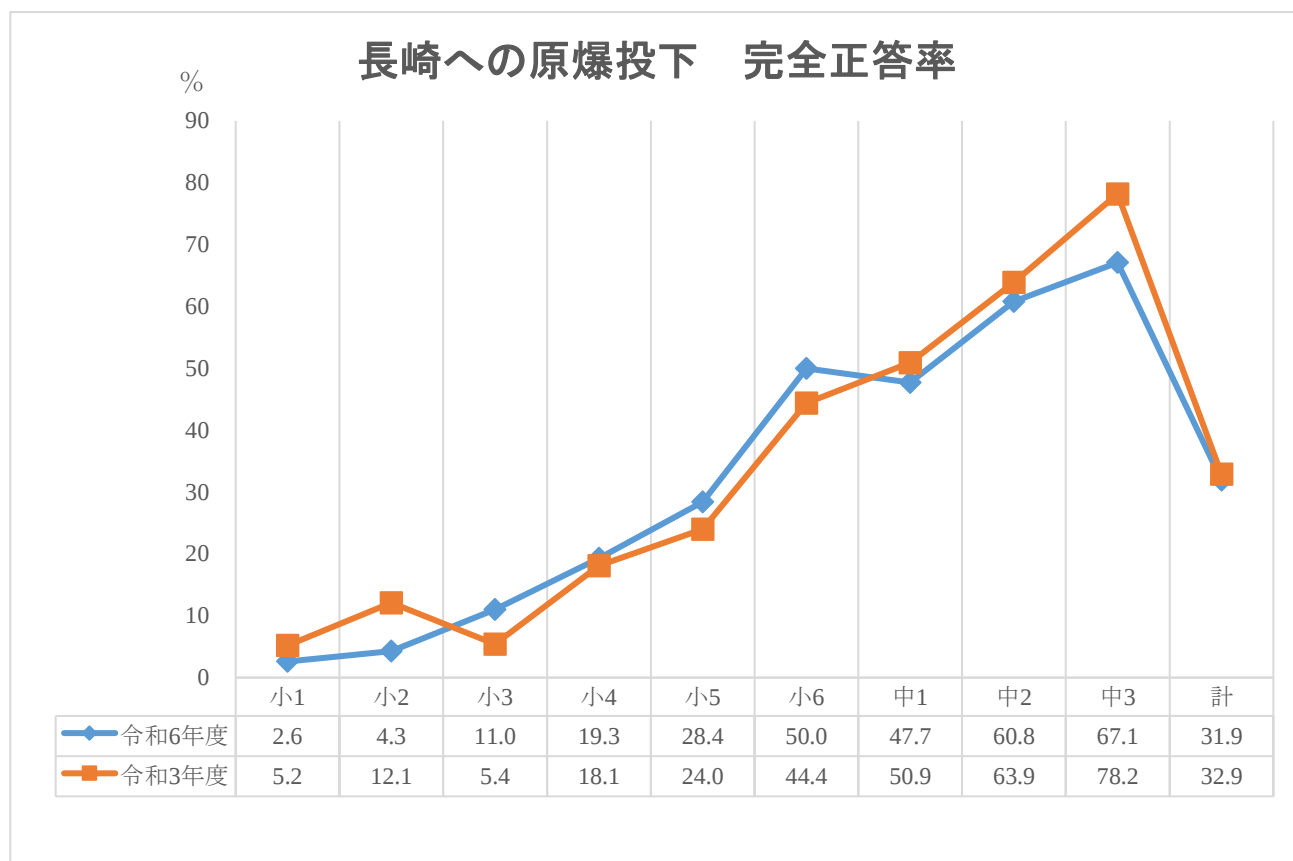
質問別 完全正答率



完全正答率を比較すると、3つの項目のうち、長崎への原爆投下についての正答率が高く、毎年学校で実施されている平和学習や平和集会、県民祈りの日（8月9日）に行うサイレンや黙とうの取り組みが定着しているものと考えられる。長崎への原爆投下と、広島への原爆投下及び終戦日の正答率に乖離があることも読み取れ、第二次世界大戦の一連の流れを学ぶ必要がある。

学年ごとに見ると、学年が上がるごとに正答率も高くなっている。

令和3年度調査の正答率と比較をしてみると次のようになる。



令和3年度と比較をすると、小学3年生から6年生については上回ったが、全体を通して下回る結果となった。特に中学3年生については、約10%も正答率が下がっている。

IV. 調査結果のまとめと今後の取り組み

1. 調査結果のまとめ

(1) 戦争・原爆に関する知識について

- ① 広島原爆投下及び終戦日についての質問において、「わかっている」人の比率が令和3年度を下回る結果となった。一方、長崎原爆投下についての「わかっている」人の比率は令和3年度を上回る結果となった。
- ② 各学校において、被爆体験の出前講座などの平和学習、原爆パネルなどの掲示、平和集会、原爆資料館の見学、千羽鶴の作成などの平和教育に力を入れていることや、広島・長崎原爆の日に行うサイレンや黙とうの取り組みが定着している一方、原爆被爆者から原爆や戦争の話を聞く機会の減少等により、全体的な認識は低下していると読みとれる。
- ③ 長崎への原爆投下について、被爆地長崎の小中学生として意識が高く、「8月9日」と月日をわかっている人の割合が小学4～6年で65.7%、中学生では83.8%と高い比率である。一方で「1945年（昭和20年）」という年の認識が低い。
- ④ 長崎への原爆投下と、広島への原爆投下及び終戦日の正答率に乖離があり、第二次世界大戦の一連の流れとして学ぶ必要がある。

(2) 原爆被爆者から原爆や戦争の体験を聞く機会について

- ① 全体の56.4%が原爆被爆者から話を聞いたことがあると回答しており、年々減少傾向にある。これは身近に原爆被爆者が減っていることが要因の一つと考えられる。
- ② 原爆被爆者から話を聞いたことがあると回答した人のうち、どこで聞いたかについては、大きな差は見られなかった。

(3) 原爆資料館について

- ① 原爆資料館を見学したことがある人は全体で44.5%であり、小学6年が94.3%と最も高い学年になっている。中学2年生が69.4%、中学3年生が44.3%の数値となっているのは、該当生徒が小学5年生であった令和2年度及び令和3年度と新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、野外学習が制限されたことにより、例年に比べて低い数値になったと考えられる。
- ② 見学したことがある人のうち、「授業以外」で見学したと答えた児童・生徒の割合が、令和3年度に続き、過去調査と比較すると高い結果となった。

(4) 各小中学校に植樹している被爆クスノキ二世について

学年ごとの「知っている」比率を見ると、小学4～6年生と中学1～3年生が、過半数を超える高い割合となった。

2. 今後の取り組み

身近に原爆被爆者が減り、直接原爆被爆者から戦争・被爆体験を聞く機会が減っている今、被爆の実相とその体験について後世に「継承」していくことが重要であり、今後も、子どもたちが戦争や被爆体験について学ぶ機会を設けていく必要がある。

さらに、戦争や原爆の悲惨さを学ぶ子どもたちが当事者意識を持ち、平和そして非核化のために自分ができることは何かを能動的に考え行動できるよう、導いていく必要がある。

① 学校との連携

学校へ被爆体験出前講座の案内や原爆パネルの貸出しを行うほか、戦争・原爆に関する資料を提供し、連携を図る。

② 平和のつどいでの取り組み

高校生 1 万人署名活動など平和活動を行う団体を招き、町民が活動を実際に目にする機会を提供する。

③ 「被爆クスノキ二世」についての周知

爆心地から南東約 800m に位置し、大きな被害を受けた山王神社の 2 本のクスノキは、焼けただれた山野の中でみごとに新しい生命の息吹を吹きかえし、被爆の復興から立ち上がった人たちに大きな感動を与えた。

時津町では平成 15 年に、被爆したクスノキの種から育てた苗を、文化の森公園、町立小中学校、町立保育所に植樹している。

核兵器のない平和な未来を願う気持ちの象徴として、「被爆クスノキ二世」の存在や意義を子どもたちに伝えていく。

④ 時津町関連の資料の提供

時津の原爆被爆者の声を収めた被爆体験 DVD 「6 キロメートル あの日を語り継ぐ」(平成 19 年制作)の貸出し、町民に募集し作成した原爆体験記「あの日を忘れない」(平成 7 年発刊)の活用、被爆歌人として「斎藤茂吉短歌文学賞」をはじめ権威ある数々の賞を受賞した竹山広氏についての紹介など、身近な時津で起きた戦争・原爆の実相や悲惨さを知り、平和について考える機会を提供する。

⑤ 核兵器廃絶平和の町宣言の周知

時津町では平成 6 年に「核兵器廃絶平和の町宣言」を行っている。
毎年 8 月 9 日に開催する「平和のつどい」において参加者全員で宣言を唱和したり、町広報紙に掲載しているところだが、今後も町民に周知するため広報を行っていく。

⑥ 令和 7 年被爆 80 年に向けて

通常実施している上記取組に加え、「平和への思い 発信・つどい・伝承」をテーマに、関係団体等と連携し被爆 80 年事業を実施する。